

## 日本人原爆被爆者における上部消化管がんの放射線関連リスク

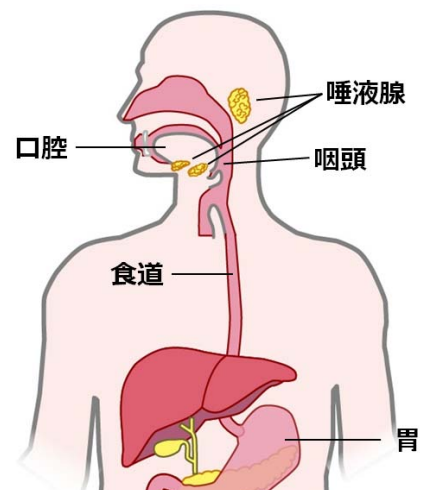
この調査では 1958 年から 2009 年に 105,444 人の対象者について集められたデータを用いて、口腔・咽頭がん、食道がんおよび胃がんのリスクが放射線被ばくによって上昇するかどうか検討しました。解析では、これらのがんのリスクを上昇させることが知られており、放射線のリスク推定に影響を及ぼす可能性のある飲酒と喫煙も考慮しました。

今回の解析結果は、先行する寿命調査での解析とほぼ一致していました。すなわち、唾液腺、食道および胃がんは放射線量が高くなるに従いリスクが統計学的に有意に上昇する一方、唾液腺を除く口腔・咽頭がんにおいてはリスクの有意な上昇が見られませんでした。また、喫煙、飲酒といった生活習慣因子は放射線によるリスクの推定に影響を及ぼしていないことも分かりました。

しかしながら、特に口腔・咽頭および食道がんについては、症例数が少なく今回は詳しい検討ができなかったため、これらと放射線被ばくとの関係を明らかにするためにも、今後も寿命調査を続けることが重要になります。

### \* 寿命調査

原爆放射線が死因やがん発生に与える長期的影響の調査を主な目的としています。1950 年の国勢調査の際に、原爆当時に広島・長崎にいたことが確認された人の中から選ばれた約 94,000 人の被爆者と、約 27,000 人の原爆当時に市内にいなかった人から成る約 12 万人の対象者を追跡調査しています。



[doi.org/10.1667/RR15386.1](https://doi.org/10.1667/RR15386.1)

本資料は、専門家でない方向けに出来るだけわかりやすく解説することを最優先しています。そのため専門的な内容は割愛しており、論文内容を完全に再現しているものではありません。より詳しい内容は出版社の論文をご覧ください。